

平成26年度

財政の概要

府中市



ともに未来へ 笑顔あふれる わがまち府中

はじめに

府中市の財政は、歳入では、バブル経済期にかけて、市税収入が増加傾向にありました。また、府中市が開催している平和島の競走事業の収益金により、他の自治体と比べて財政が豊かな時期がありました。しかし、バブル経済崩壊後は、国内景気の低迷により市税収入、競走事業の収益金は減少してきました。そして、平成20年度以降は、世界的な経済不況による国内景気の悪化により、再び大幅な減収となっています。

一方、歳出では、生活保護や医療などの社会保障にかかる経費、子ども、高齢者、障害のある方へのきめ細かい福祉サービスにかかる経費、各種公共施設の老朽化に対応するための修繕や建替えにかかる経費などが増加してきています。

平成25年度以降は、景気の回復傾向により、市税収入などは増加傾向となっていますが、消費税率引上げもあり、今後の景気の回復が不透明な中において、歳出が増加する厳しい財政状況は当面続くことが予想されます。

「財政の概要」は、平成26年度の予算の状況、さらに、現在抱えている財政的な課題をできるだけ分かりやすくまとめたもので、市民の皆さんが府中市の財政状況を理解していただくための参考として作成しました。

<目次>

1. 市の予算規模	2
2. 市の予算・決算の仕組み	3
3. 市の予算の推移	4
4. 「府中さん」一家のお金の使いみち	12
5. 市民一人当たりの予算の使われ方	13
6. 府中市の財政指標の状況	15
7. 府中市の基金の状況	19
8. 府中市の市債の状況	22
9. 今後の市の取り組み	26

1. 市の予算規模

予算とは、1年間の収入と支出の見積額です。どのような事業にどれだけのお金を支出するのか、どのようなお金がいくら入ってくるのかを表したものです。

府中市の予算には、一般会計予算と7つの特別会計予算があります。

市の予算は、4月1日から翌年3月31日までの1年間を会計年度としています。

予算は、この1年間にどのくらいの収入があり、それを何にどのくらい支出するかの収支予定であり、毎年2月から3月に開かれる第1回市議会定例会に次年度の予算案を提案し、市議会の議決を受け、4月からその予算に基づき事業を行います。

皆さんの家庭で、「給料がいくらで、食費や電気・水道代などにいくら」と予定を立てることと同じです。そして、1年間の実際の収支の実績が決算です。

平成26年度の各会計の当初予算額は次のとおりです。

■一般会計…市税を主な収入として、行政運営の基本的な経費や事務事業を経理する会計です。

■特別会計…特定の事業を行う場合に、一般会計と区別して、法律に基づいて設置するものと条例に基づいて設置するものがあり、府中市には次の特別会計が設置されています。

■法律により設置している特別会計	
○国民健康保険…主に国民健康保険税を財源に行う保険事業	
○後期高齢者医療…主に後期高齢者医療保険料を財源に行う75歳以上の高齢者を対象とした保険事業	
○介護保険…主に介護保険料を財源に行う介護保険事業	

■条例により設置している特別会計	
○競走事業…ボートレース平和島売上金を財源に行うモーターボート競走事業	
○公共用地…公共用地取得に関する事業	
○下水道事業…主に下水道使用料を財源に行う下水道の整備及び管理に関する事業	
○火災共済事業…主に火災共済掛金を財源に火災被災者への火災見舞金の支給に関する事業	

◆各会計別当初予算額◆

区 分		平成26年度	平成25年度	伸率(%)
一般会計		884 億 1000 万円	927 億 1000 万円	△4.6
特別会計	国民健康保険	240 億 9177 万円	236 億 6200 万円	1.8
	後期高齢者医療	45 億 2475 万 3 千円	42 億 1519 万 9 千円	7.3
	介護保険	141 億 4538 万 9 千円	135 億 1521 万 7 千円	4.7
	競走事業	1267 億 923 万 2 千円	1173 億 2763 万円	8.0
	公共用地	49 億 6387 万 2 千円	28 億 2119 万 4 千円	75.9
	下水道事業	40 億 3205 万 1 千円	37 億 5325 万 3 千円	7.4
	火災共済事業	933 万 1 千円	951 万 2 千円	△1.9
計		1784 億 7639 万 8 千円	1653 億 400 万 5 千円	8.0
合 計		2668 億 8639 万 8 千円	2580 億 1400 万 5 千円	3.4

2. 市の予算・決算の仕組み

市の予算は、歳入と歳出を同額で計上します。

決算では、歳入は、予算を上回って収入できますが、歳出は予算を上回って支出することはできません。また、決算では、歳入が歳出を上回ることで、差引きでの収支は、黒字になります。なお、黒字分は、次の年度の財源として使われます。

■ 予算・決算の考え方

○歳入予算額…1年間に収入として見込める金額を見積もります。

○歳出予算額…1年間に必要となる支出の額を見積もります。必ず支出しなければならないものや経常的な支出を決め、施設整備（投資）事業や臨時的の支出の枠を決めます。

○一般財源…毎年、経常的に収入される市税など、使用目的が決められていないもの

○特定財源…国庫・都支出金や使用料・手数料、市債など、使用目的が決められているもの

○経常的歳入…市税や手数料、毎年交付される補助金など、毎年、必ず見込める歳入

○臨時的歳入…寄附金や市債のほか、事業の実施によって交付される補助金などの歳入

○経常的支出…人件費、公債費、扶助費の義務的経費や施設運営費など、必ず支出しなければならない経費

○臨時的支出…施設建設や備品購入などの投資的な経費や一時的に実施する事業の経費

予算	歳入	一般財源		特定財源		
		経常	臨時	経常	臨時	
	歳出	義務的経費		投資的経費	その他	
		経常	臨時	経常	臨時	

||

決算	歳入	一般財源		特定財源		歳入を下回った分は、基金積立のほか、翌年度へ繰越し	
		経常	臨時	経常	臨時		
	歳出	義務的経費		投資的経費	その他		
		経常	臨時	経常	臨時		

市が事業や催しなどを行ったときの支出は、歳出予算額を上回って支払うことはできません。このため、歳入予算の見積もりをきちんと行い、決算時には、歳入が確保されていれば、収支が赤字になることはありません。

ところが、実際の収入が歳入予算額を大きく下回ったりすると、支出額が収入額を上回り、赤字決算になってしまいます。

このため、歳入予算を見積もる際は、確実なものを見込まなければなりません。

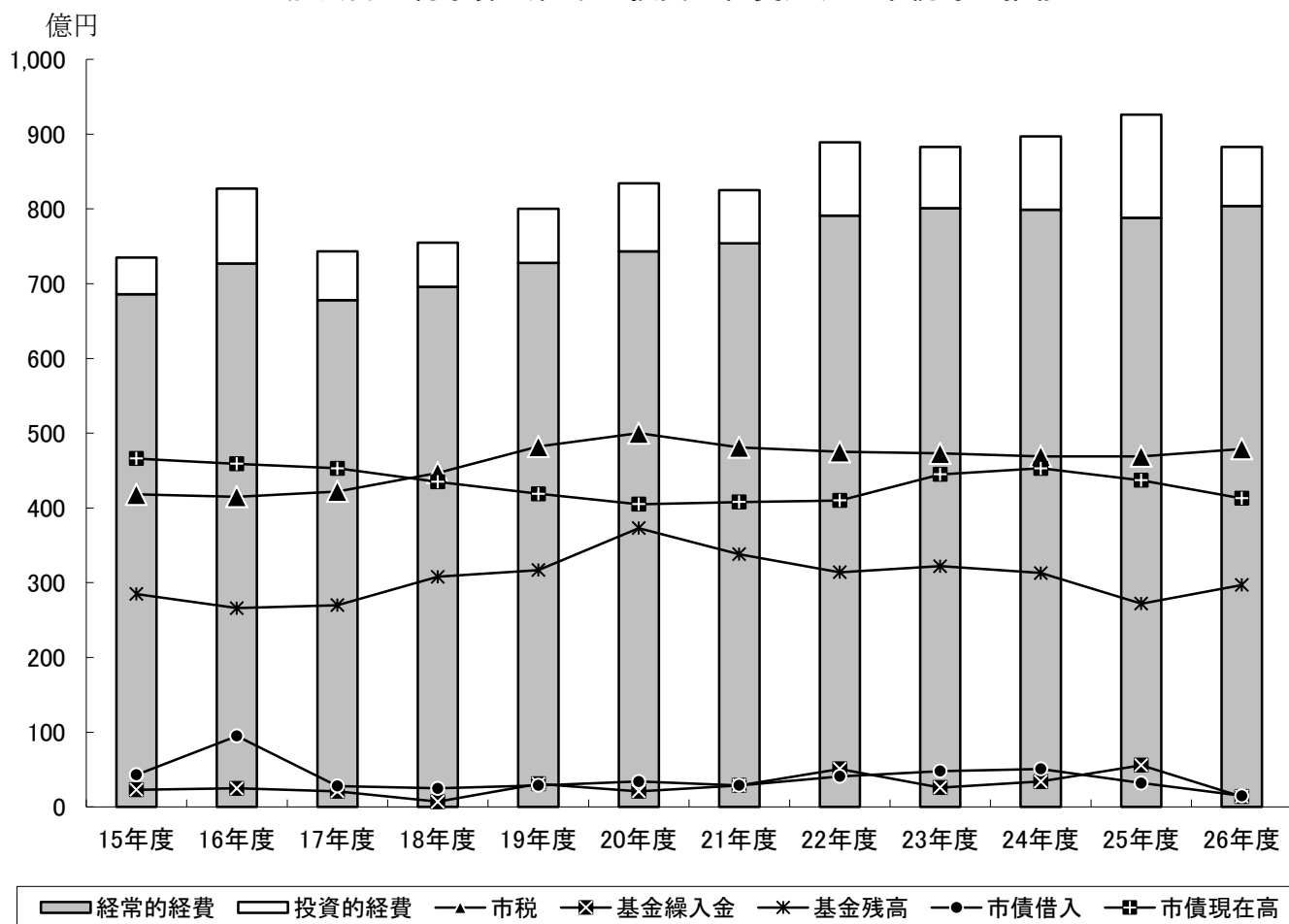
ただ、決算に向けて、実際の収入額が確定するのは、ほとんどが年度の後半から年度末になります。国や都からの交付金・補助金なども、ほとんどが翌年3月に確定します。市税についても法人などは、年度末近くにならないと、はっきりした動向がつかめないことから、年度途中に行う予算の補正は、多くの場合、前年度からの繰越金など、収入額が確定したものを財源としています。

3. 市の予算の推移

現在、府中市の財政事情は、景気低迷が長引く中で、歳入の根幹である市税が減少傾向の中、市民の要望に応え、福祉、教育、環境など、様々な施策を実施してきた結果、歳出が増加してきています。

歳出を道路や公共施設を整備するための費用（投資的経費といいます。）と保育所、学校、文化センターなどの運営や補助金の給付など様々な経常的な行政サービスの費用（経常的経費といいます。）に分類して財源の状況などと併せて推移をグラフと表で見ると、平成20年度以降は、市税が減少する中で、経常的経費が増加している様子がわかります。

◆一般会計当初予算（経常・投資的経費）及び市税等の推移◆



(千円)

年度	15年度	16年度	17年度	18年度
経常的経費	68,609,761	72,722,955	67,801,842	69,655,383
投資的経費	4,920,239	10,037,045	6,558,158	5,954,617
市税	41,814,759	41,516,138	42,212,495	44,760,303
基金繰入金	2,317,862	2,584,498	2,132,357	757,364
基金残高	28,529,924	26,663,070	27,013,954	30,830,779
市債借入	4,338,000	9,519,600	2,801,500	2,591,000
市債現在高	46,663,637	45,922,936	45,377,410	43,598,285

(千円)

年度	19年度	20年度	21年度	22年度
経常的経費	72,810,334	74,396,358	75,457,323	79,103,790
投資的経費	7,299,666	9,103,642	7,162,677	9,846,210
市税	48,220,907	50,017,169	48,167,230	47,585,452
基金繰入金	3,100,207	2,174,087	3,716,418	5,165,838
基金残高	31,758,505	37,301,361	33,895,938	31,468,440
市債借入	2,930,000	3,430,000	2,974,100	4,187,600
市債現在高	41,936,556	40,542,857	40,862,325	41,071,750

(千円)

年度	23年度	24年度	25年度	26年度
経常的経費	80,118,220	79,904,964 (79,944,620)	78,860,305	80,447,594
投資的経費	8,231,780	9,445,036 (9,850,169)	13,849,695	7,962,406
市税	47,346,287	46,712,175 (46,939,664)	46,991,279	47,944,717
基金繰入金	2,699,262	3,497,775	5,699,314	1,417,865
基金残高	32,220,548	31,304,766	27,270,973	29,761,031
市債借入	4,899,800	5,131,300	3,267,000	1,510,700
市債現在高	44,560,257	45,387,841	43,760,181	41,356,987

※基金残高は普通会計、起債は一般会計＋公共用地特別会計

※平成24年度は、一般会計当初予算が骨格予算のため、6月補正後予算を()内に掲載

★「一般会計・特別会計」と「普通会計」

各自治体とも会計は、「一般会計」と「特別会計」によって構成されていますが、自治体ごとに各会計の範囲が異なっています。このため、一定の基準で区分しなおし、地方財政状況調査で用いる全国共通の会計として「普通会計」というものがあります。「普通会計」は、国が定めた各地方公共団体の財政状況の把握や財政比較などのために用いられる統計上、観念上の会計です。

この冊子においても、他市との比較などをするにあたり、普通会計を基に作成した資料を記載しています。

なお、府中市における普通会計は、一般会計と公共用地特別会計を合計したものとほぼ同じです。

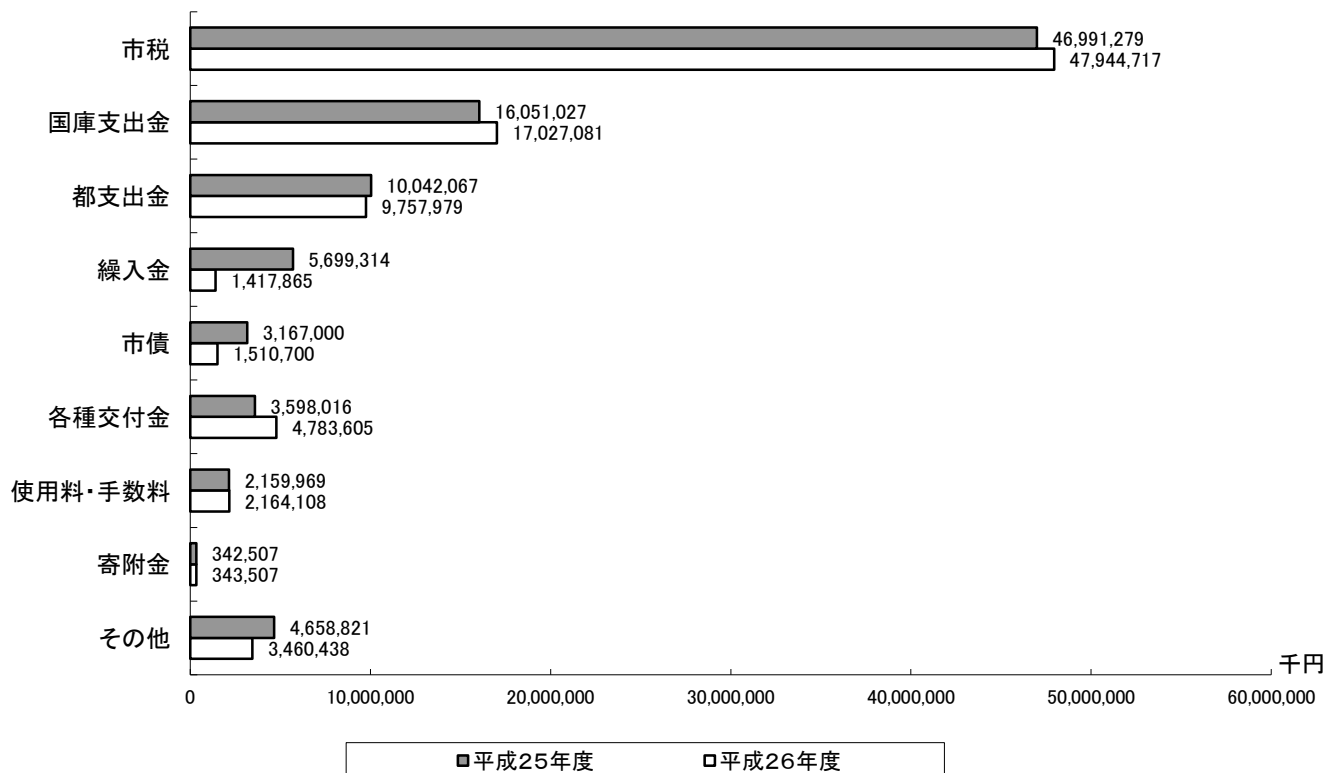
▽平成26年度の一般会計歳入予算

平成26年度の歳入の柱となる市税は479億4471万7千円、地方消費税交付金などの国等からの各種交付金は47億8360万5千円、地方譲与税は3億8006万5千円などで、この結果、市税を中心とする一般財源額（使いみちを特定されず、どのような経費にも使用することができる財源で、市税、地方譲与税、地方交付税など）は、総額551億1678万1千円となり、歳入に占める一般財源の比率は62.3%となっています。なお、平成25年度当初予算が531億952万7千円で、比較すると20億725万4千円の増収、3.8%増となっています。

一方、補助金などの特定財源をみると、国庫支出金と都支出金は267億8505万7千円で、前年度比2.7%増となっています。これは、臨時福祉給付金や子育て世帯臨時特例給付金に係る国庫補助金の計上などに伴い増額となったためです。

また、借入金である市債の発行は、15億1070万円で、前年度比52.3%減、貯金である基金からの繰入金は14億1786万5千円で、前年度比75.1%減となっています。これは、府中駅南口地区市街地再開発事業の進捗状況などに伴い減額となったためです。

◆一般会計歳入予算の内訳◆



- 市 税 …………… 市民の皆さんが納めた税金です。
- 国庫支出金 …………… いろいろな事務・事業に対する国からの負担金や補助金などです。
- 都支出金 …………… いろいろな事務・事業に対する都からの負担金や補助金などです。
- 繰入金 …………… 特定の目的のために積み立てている基金を事業の実施に伴い繰り入れます。また、市税減収に伴う年度間調整にも活用しています。
- 市 債 …………… 施設の建設や大規模な整備などのために借り入れたもので、長期にわたって返済します。
- 各種交付金 …………… 利子割交付金、配当割交付金、地方消費税交付金などです。
- 使用料・手数料 …… 施設の使用料や証明書の発行に伴う手数料などです。
- 寄 附 金 …………… 市民の皆さんや事業者などからの寄附です。

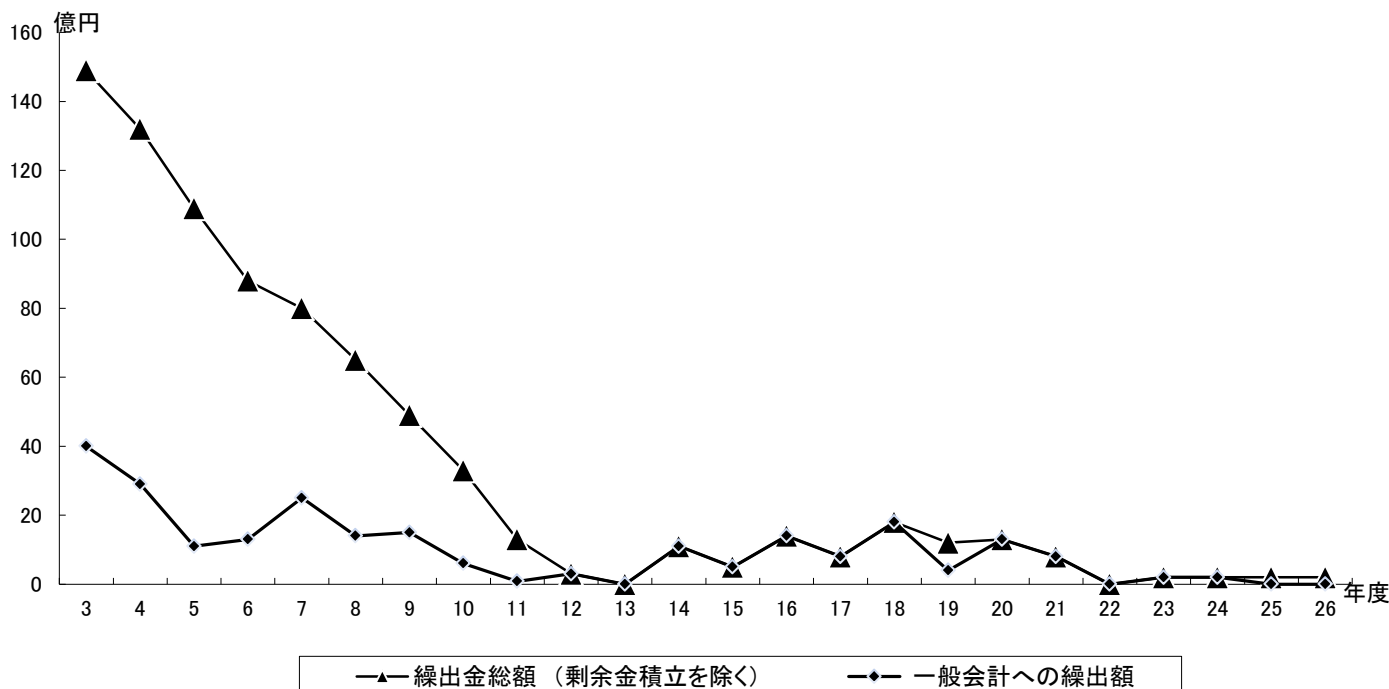
▽競走事業特別会計からの繰入金

府中市独自の歳入として、競走事業での収益金があります。

府中市は、競走事業特別会計を設置し、大田区平和島で行われているモーターボート競走事業を開催しています。

競走事業では、売上金から勝舟投票券払戻金、人件費などの運営経費などを差し引いた中から、黒字分を府中市の他の会計の財源として、競走事業特別会計から繰り出し、一般会計などに繰り入れています。

◆競走事業特別会計から一般会計などへの繰出金推移◆



(千円)

年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
繰出総額	14,900,000	13,290,000	10,900,000	8,810,000	8,000,000	6,515,000
一般会計への繰出額	4,080,000	2,937,000	1,110,000	1,390,000	2,550,000	1,425,000

年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
繰出総額	4,900,000	3,350,000	1,384,000	300,000	0	1,190,000
一般会計への繰出額	1,570,000	630,000	84,000	300,000	0	1,190,000

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
繰出総額	500,000	1,400,000	800,000	1,800,000	1,268,000	1,300,000
一般会計への繰出額	500,000	1,400,000	800,000	1,800,000	768,000	1,300,000

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度当初	26年度当初
繰出総額	800,000	0	200,000	200,000	200,000	200,000
一般会計への繰出額	800,000	0	200,000	200,000	0	0

※繰出総額は剰余金積立額を除いたものです。

※25年度、26年度は予算額です。

昭和30年から始めた競走事業は、平成2年度に一般会計をはじめとする他の会計へ約168億円、平成3年度には約149億円の繰り出しができるほどの収益をあげていましたが、バブル経済の崩壊後は、売上金の減少に伴い、繰出額も減少し、平成13年度には収益が運営経費と相殺され、繰り出しがまったくできない状況となりました。

その後、人件費や施設の運営委託経費など競走事業の運営にかかる経費を見直し、繰出額を確保していました。しかし、平成20年度からの世界的な経済不況により、売上金が減少し、従事員の雇用の見直しなどを実施しましたが、平成22年度には、平和島競走場でSGレースが開催されなかったことによる売上減などから、再び繰り出しができない状況となりました。

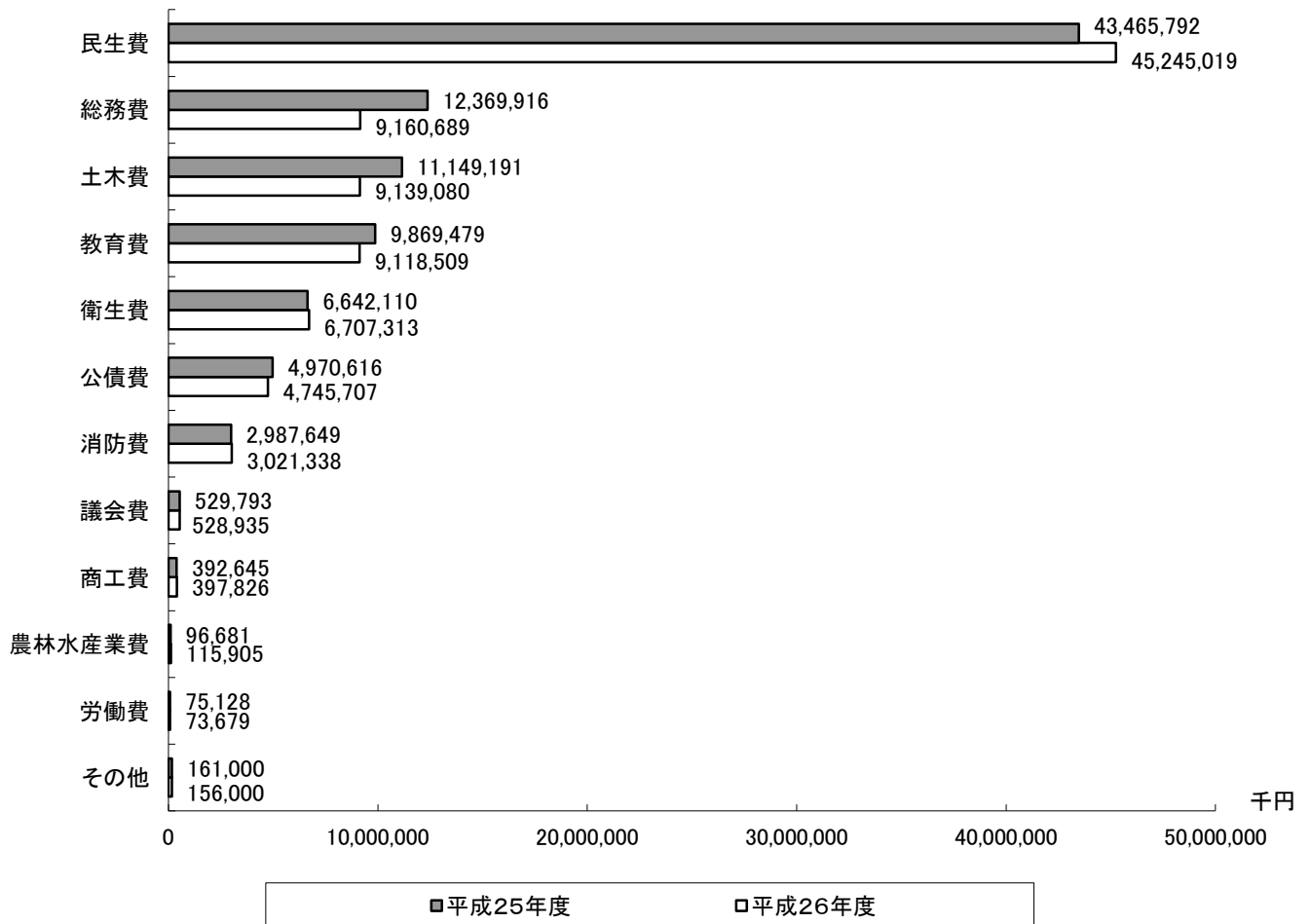
毎年度、運営経費の見直しや人件費の削減、ファン層拡大に向けた取り組みを行っていますが、ファン層の高齢化や余暇の多様化などもあり、売上の減少が続いており、繰出額を大幅に増やせる状況ではありません。今後は、現状の売上の中で、いかに繰出金を確保するかが課題となっています。



▽平成26年度の一般会計歳出予算

平成26年度の歳出予算のうち、民生費では、生活保護世帯の増加や特別会計への繰出金の増により、平成25年度と比べ、17億7922万7千円、4.1%の増となっています。また、総務費では、府中駅南口再開発事業保留床購入事業の予算計上がなくなるなどから32億922万7千円、25.9%の減となっています。土木費では、府中駅南口地区市街地再開発事業の進捗により予算計上額が減となったことなどから20億1011万1千円、18.0%の減となっています。教育費では、小・中学校の耐震改修事業が終了することなどから7億5097万円、7.6%の減となっています。

◆一般会計歳出予算の内訳◆



- 民生費 … 高齢者・障害者・児童福祉・生活保護などの経費や保育所や特別養護老人ホームの運営費などが主なものです。
- 教育費 … 学校教育や社会教育に係る経費や、図書館・生涯学習センターなどの運営費が主なものです。
- 総務費 … 行政運営の一般事務経費や管理経費と選挙経費などが主なものです。
- 衛生費 … 予防接種、各種健診の費用やごみ・し尿処理経費などが主なものです。
- 土木費 … 道路の新設や改良工事、公園の維持管理費や市営住宅の建設費などが主なものです。
- 公債費 … 借入をしている市債の返済金です。
- 消防費 … 消防・防災や消防団の運営のための経費が主なものです。
- 議会費 … 議会運営のための経費で、議員報酬が主なものです。
- 商工費 … 商業振興のための経費で、中小企業などの育成振興などが主なものです。
- 農林水産業費 … 農業振興のための経費で、農業事業への補助などが主なものです。
- 労働費 … 勤労福祉対策のための経費で、勤労者への福利厚生事業が主なものです。

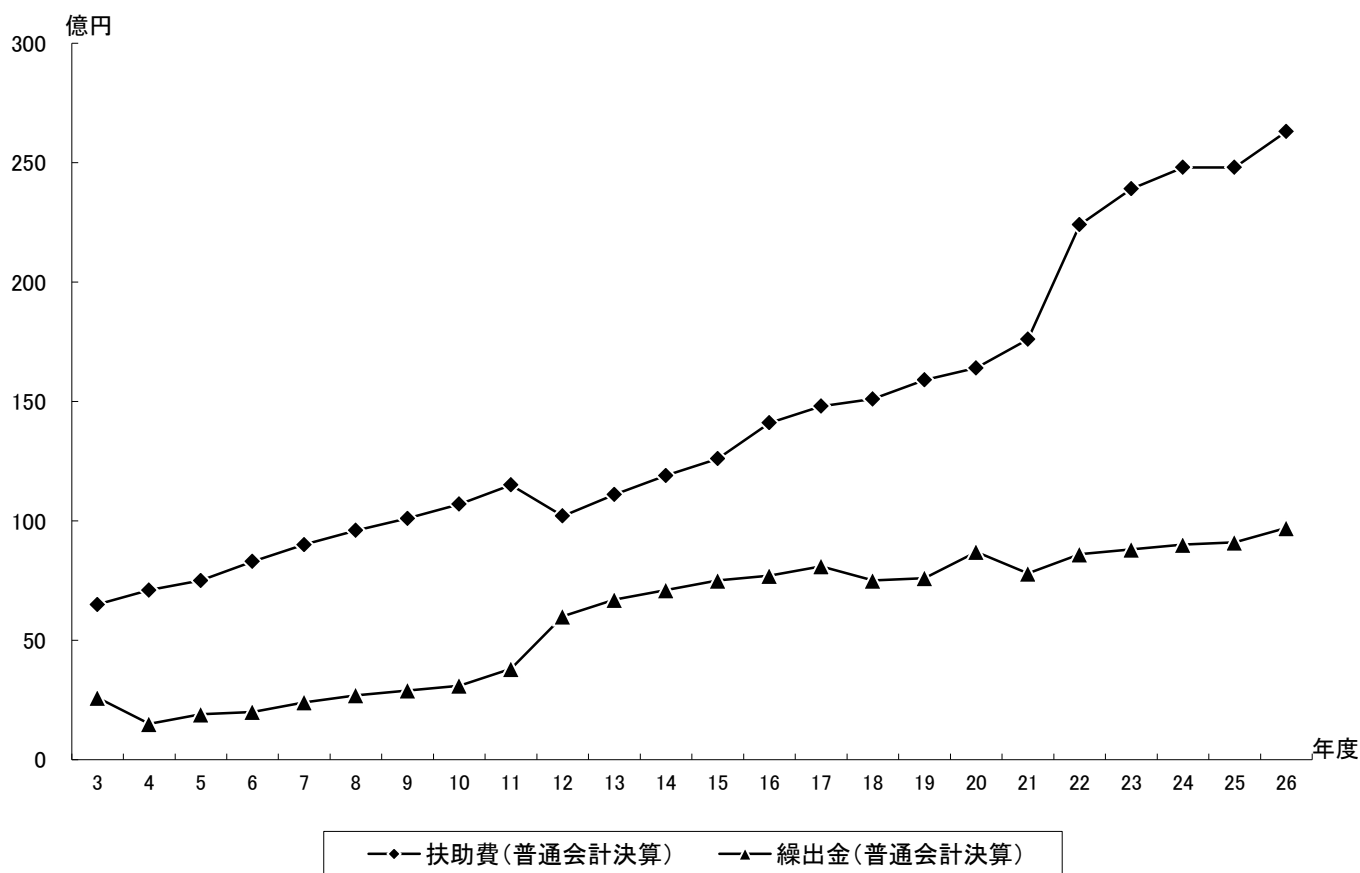
▽扶助費と繰出金の推移

最近の歳出の増加の大きな要因として、扶助費と繰出金の増加があります。

扶助費は、生活保護費、高齢者や障害者への給付費、児童手当や児童扶養手当などの手当費、保育所の運営費、子ども医療制度での医療費負担など主に福祉に係る経費です。

繰出金は、国民健康保険や介護保険、下水道事業などに対し、法律などで予算を繰り出すことが定められている場合や、その年度に行う事業に対しての財源不足分を補うことで、事業の進捗に影響が出ないようにする場合の対応として行っているものです。

◆扶助費と繰出金の推移◆



年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
扶助費 (千円)	6,579,991	7,159,219	7,591,619	8,321,251	9,002,990	9,672,880
繰出金 (千円)	2,642,223	1,524,992	1,961,473	2,053,155	2,495,861	2,706,108

年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
扶助費 (千円)	10,138,425	10,776,235	11,578,520	10,201,635	11,123,444	11,928,379
繰出金 (千円)	2,917,297	3,103,585	3,840,351	6,080,824	6,792,902	7,129,774

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
扶助費 (千円)	12,665,728	14,140,165	14,819,452	15,198,000	15,957,637	16,498,098
繰出金 (千円)	7,558,725	7,767,143	8,169,562	7,556,127	7,649,332	8,789,361

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度当初	26年度当初
扶助費（千円）	17,607,705	22,430,312	23,932,390	24,872,485	24,778,250	26,383,172
繰出金（千円）	7,809,694	8,685,299	8,842,422	9,004,733	9,135,016	9,794,478

※25年度・26年度は予算額です。

※扶助費、繰出金は普通会計による金額です。

扶助費は、福祉施策の充実による経費増や、不況による生活保護受給者数の増などから増加傾向にあります。特に、平成22年度は子ども手当制度創設のため大幅な増となっています。福祉施策は、市民のセーフティーネットとしての役割があることから、事業の縮小や経費の削減が難しいため、今後も増加することが見込まれます。

また、一般会計からの繰出金は、現在では、国民健康保険をはじめとする特別会計の運営にとって大きな支えとなっている状況です。

近年、この繰出金が増加し続け、一般会計の財政を圧迫している状況にあります。今後も増加傾向にある繰出金を、いかに適正なルールに沿った額とするかが課題となっています。



4. 「府中さん」一家のお金の使いみち

平成26年度一般会計予算を1万分の1にして「府中さん」一家の家計に例えてみると…。

「府中家」の1年間の予算は、884万1000円です。この家族は、限られたお金をどのように使っていくのでしょうか。

■「府中さん」家族

- 府中さん（世帯主） … 会社員。不景気で給料減も、景気上向きで少し回復。別にアパート経営もしています。
- 妻 … お父さんの給料では足りないので、保育士として保育園にパート中。
- 長女 … 大学1年生、京都で一人暮らしをしています。
- 長男 … 中学3年生、高校受験を控えています。
- 次男 … 小学6年生。
- おじいちゃん夫婦 … 賃貸マンション、貸店舗などでの賃料収入があります。

※下の表の（ ）は、平成25年度当初予算の内容です。

収入

- 府中さん夫婦の給料 479万4000円
【市税】 (469万9000円)
- おじいちゃん夫婦からの援助 319万5000円
【国や都からの補助金、各種交付金など】 (301万2000円)
- 銀行からのローン 15万1000円
【市債】 (31万7000円)
- 貯金の引出 23万2000円
【繰入金・繰越金】 (66万円)
- アパート収入 31万7000円 (31万6000円)
【分担金及び負担金・使用料及び手数料】
- その他 15万2000円 (26万7000円)
【諸収入・寄附金・財産収入】

収入計

884万1000円
(927万1000円)

支出

- 電気・ガス・水道や洋服代など 170万7000円
【物件費】 (179万5000円)
- 食費 116万7000円 (122万5000円)
【人件費】
- お小遣い・弟の塾代など 93万4000円
【補助費】 (86万5000円)
- 住宅や車のローンの返済 47万5000円
【公債費】 (49万7000円)
- 家の増改築や修理代 91万7000円
【投資的経費・維持補修費】 (147万2000円)
- 一人暮らしの長女への仕送り 97万9000円
【繰出金】 (91万3000円)
- 医療費など 263万8000円
【扶助費】※ (247万8000円)
- 貯金 7000円 (9000円)
【積立金】
- その他 1万7000円 (1万7000円)
【出資金・貸付金、予備費】

支出計

884万1000円
(927万1000円)

※扶助費は、生活保護費、高齢者や障害者への給付費、児童手当や児童扶養手当などの手当費、保育所の運営費、子ども医療制度での医療費負担など主に福祉に係る経費です。

5. 市民一人当たりの予算の使われ方

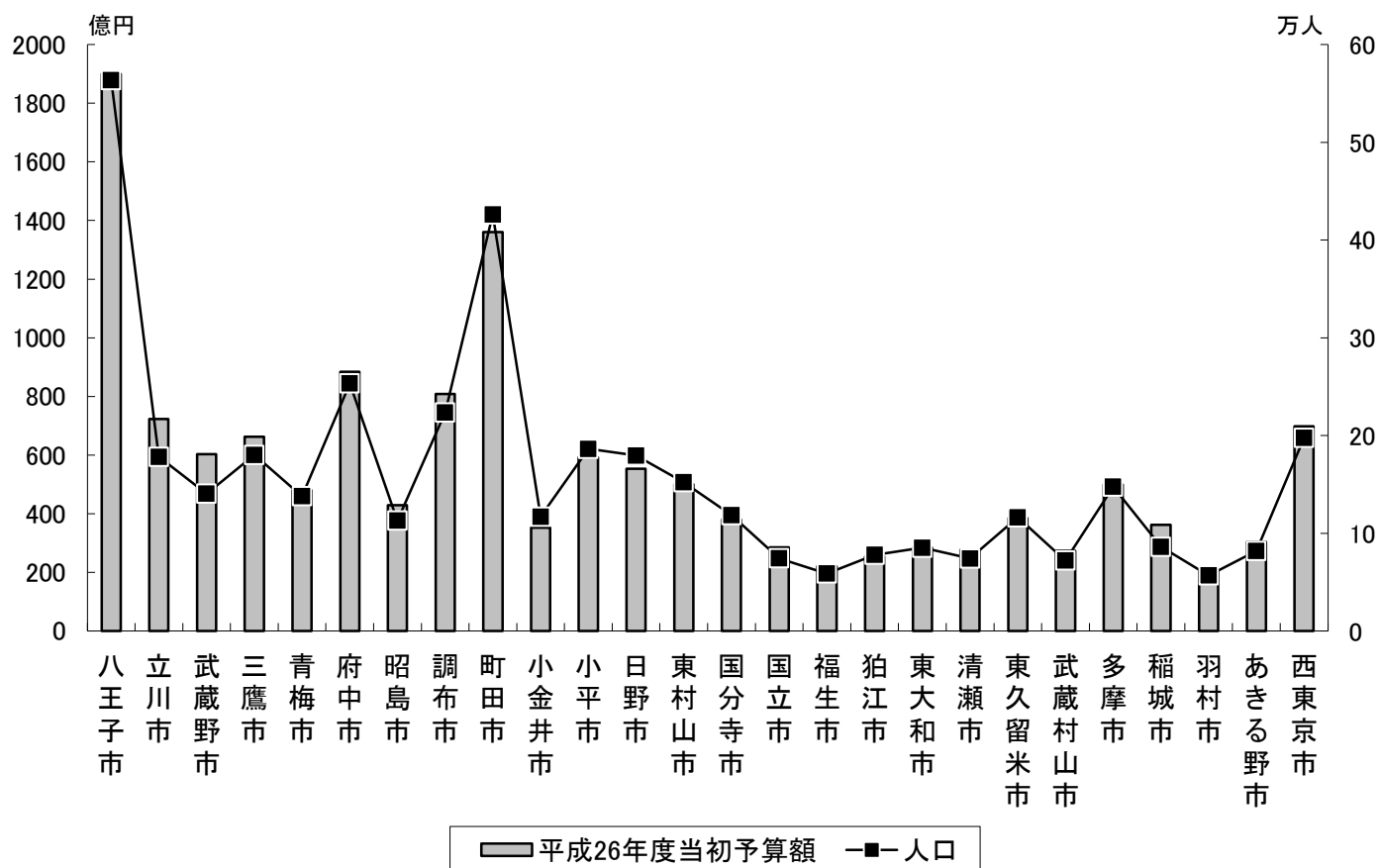
平成26年度の一般会計予算を、市民一人当たりに換算してみました。

民生費が多くを占めています。また、市税の負担に対する市民への還元率でみると約1.84倍です。これは、例えば100円を支払って、184円分の買い物をしたことと同じです。

(H26年1月1日の人口253,288人)

<p>民生費 178,631円 福祉サービスのために</p> 	<p>総務費 36,167円 行政運営・コミュニティのために</p> 	<p>土木費 36,082円 道路・水路や公園整備のために</p> 
<p>教育費 36,000円 学校教育・図書館やスポーツ振興のために</p> 	<p>衛生費 26,481円 健康づくりや環境整備のために</p> 	<p>公債費 18,736円 市債（借金）の返済のために</p> 
<p>消防費 11,928円 消防・防災のために</p> 	<p>議会費 2,088円 議会運営のために</p> 	<p>農林・商工費 2,029円 農業や商業振興のために</p> 
<p>その他 907円</p> 	<p>市税の人口一人当たりの負担額 $479億4471万7千円 \div 25万3288人 = 18万9289円$</p> <p>市民一人当たりの予算の使われ方（一般会計） $884億1000万円 \div 25万3288人 = 34万9049円$</p> <p>市税の負担に対して市の行政サービス量 $34万9049円 \div 18万9289円 = 約1.84倍$</p>	

◆平成26年度 多摩26市の当初予算・人口比較◆



	八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市
当初予算額(億円)	1,900	723	603	663	480	884	429
人口(人)	563,482	178,194	140,527	180,194	137,833	253,288	112,905
一人当たりの予算額(円)	337,189	405,670	428,814	368,131	348,248	349,049	380,231

	調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市	国分寺市
当初予算額(億円)	808	1,360	352	592	553	501	380
人口(人)	223,691	426,222	117,001	186,339	179,571	152,088	118,697
一人当たりの予算額(円)	361,168	319,086	300,425	317,582	307,789	329,465	320,151

	国立市	福生市	狛江市	東大和市	清瀬市	東久留米市	武蔵村山市
当初予算額(億円)	285	221	254	284	277	385	274
人口(人)	74,385	58,821	77,923	85,297	74,216	116,417	72,169
一人当たりの予算額(円)	383,384	375,546	325,603	332,556	373,033	330,673	378,977

	多摩市	稲城市	羽村市	あきる野	西東京市
当初予算額(億円)	499	362	209	304	698
人口(人)	147,681	86,169	56,837	81,912	197,546
一人当たりの予算額(円)	337,586	420,662	367,366	371,585	353,361

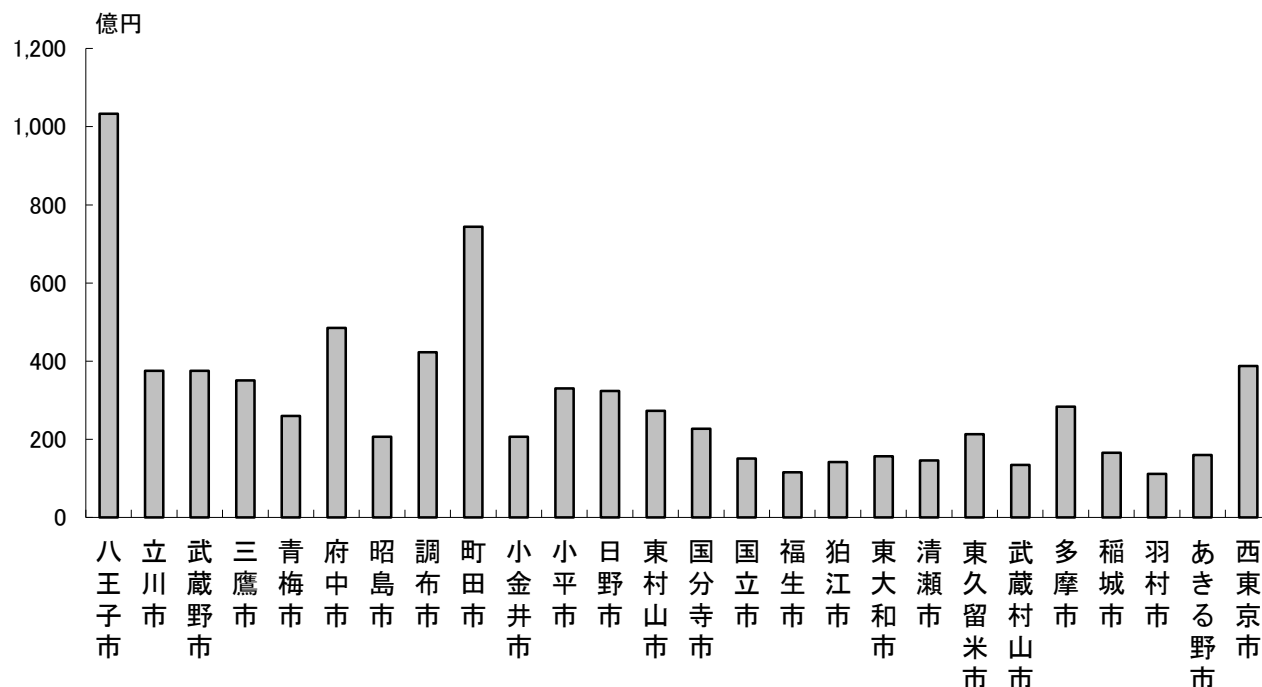
※人口は平成26年1月1日現在です。

6. 府中市の財政指標の状況

府中市の財政状況を説明するにあたり、府中市の標準財政規模についてお知らせします。

標準財政規模は、それぞれの市町村が標準的なサービスをするために必要な一般財源（使い道が限定されない市税、地方譲与税、地方交付税などの収入見込み）の大きさを示すものです。標準財政規模は、借入金返済費用が収入に見合ったものになっているか（実質公債費比率）などを計算する際に使われ、単純に標準財政規模が大きいから、財政状況が良いというわけではありません。府中市は、26市では3番目の財政規模で、人口も3番目に多くなっています。

◆平成24年度決算 多摩26市の標準財政規模◆



	八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市
標準財政規模(千円)	103,319,156	37,565,125	37,549,335	35,195,549	26,023,807	48,550,593
	昭島市	調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市
標準財政規模(千円)	20,731,976	42,330,226	74,480,612	20,726,369	33,033,480	32,446,407
	東村山市	国分寺市	国立市	福生市	狛江市	東大和市
標準財政規模(千円)	27,358,716	22,740,977	15,132,771	11,626,750	14,243,509	15,754,545
	清瀬市	東久留米市	武蔵村山市	多摩市	稲城市	羽村市
標準財政規模(千円)	14,649,372	21,368,997	13,541,815	28,485,865	16,618,179	11,216,436
	あきる野市	西東京市				
標準財政規模(千円)	16,061,832	38,882,309				

なお、財政運営の基本は、いうまでもなく財政の健全性の確保にあります。財政が健全であるかどうかは、①収支の均衡が保たれていること、②財政構造の弾力性が保たれていること、③適正な行政水準が確保されていること、などが重要なポイントです。

このような財政運営の健全性、歳入・歳出の弾力性、歳入の安定性を客観的に捉える指数として経常収支比率、実質公債費比率があり、府中市では、経常収支比率80%台、実質公債費比率10%以内を健全な財政運営を維持するうえの目標としています。

府中市の平成24年度決算の経常収支比率は、89.9%であり、義務的経費のうち生活保護費、医療費などの扶助費が増加傾向にあり、今後も厳しい状況が見込まれます。

■経常収支比率…市税や各種交付金などの毎年度経常的に収入される一般財源が、人件費や借入金返済など毎年度経常的に支出される経費にどの程度充当されているかを示す比率です。一般的に70%～80%が適正水準と言われており、90%を超えると財政構造の弾力性が失われつつあると考えられます。

★財源の充当の考え方★

経常的な経費には、大まかに言えば、まず経常的な特定財源を充当し、残りの部分に経常一般財源（3ページで説明した一般財源のうち、市税や地方譲与税、各種交付金など）を充当します。

臨時的な経費には、まず臨時的な特定財源を充当し、不足分に臨時的な一般財源と、経常経費に充当した経常一般財源の余りを充てます。

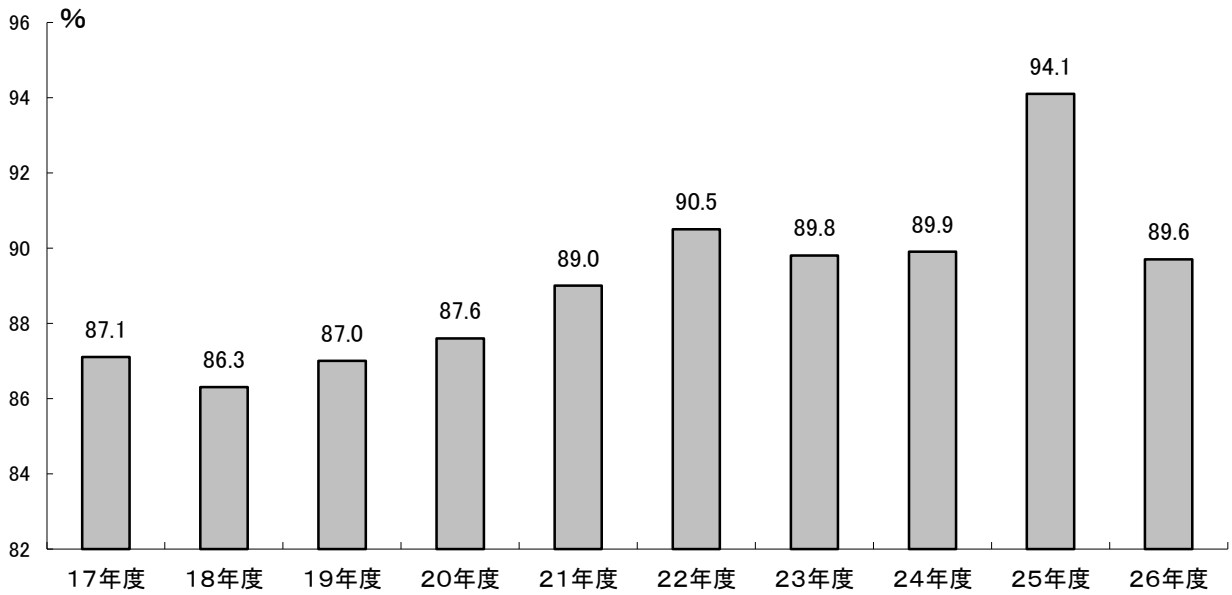
このため、経常経費に充当した一般財源の残りが大きいほど経常収支比率が低くなります。新規や臨時の財政需要に対して余裕があるということになります。

○経常収支比率の算出の考え方

歳出	経常経費		臨時経費		
歳入	経常 特定財源	経常一般財源 (経常歳出分)	臨時 特定財源	臨時 一般財源	経常一般財源 (臨時歳出分)

新規・臨時事業や投資的経費への対応、基金の積立などに活用することができます。

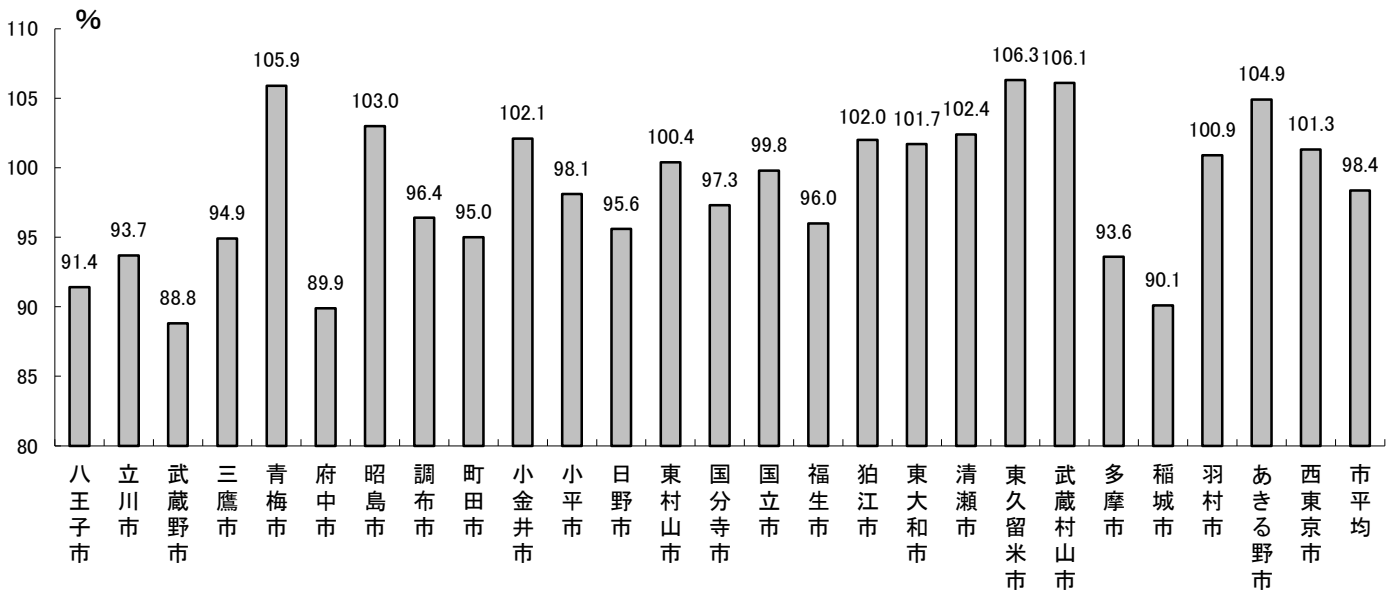
◆経常収支比率の推移◆



※平成25年度・26年度は当初予算上の見込です。

※臨時財政対策債等を歳入経常一般財源等に加えない場合です。

◆平成24年度決算 多摩26市の経常収支比率◆



※臨時財政対策債等を歳入経常一般財源等に加えない場合です。

■実質公債費比率…地方公共団体の財政の健全化に関する法律（いわゆる財政健全化法）で規定されている、地方公共団体の財政状況を示す4つの指標のうちのひとつで、地方公共団体における公債費（一般会計、特別会計のほか、一部事務組合、広域連合までを含む。）による財政負担の度合いを判断する指標です。この数値が大きいということは、借金の返済以外の施策に使えるお金が少ないということになります。18%以上で、起債にあたり国や都道府県の許可が必要となり、25%以上で一定の地方債の起債が制限されます。

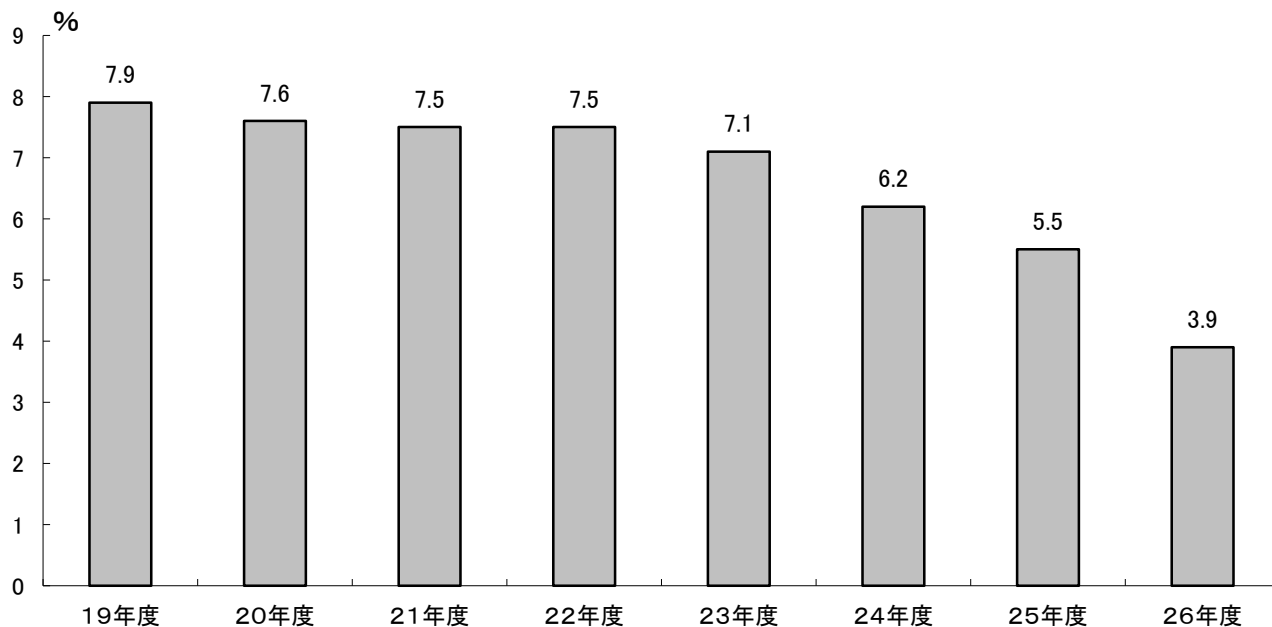
今後、府中駅南口地区市街地再開発事業や公共施設の改築などの財源として市債を見込んでいることから、市債の償還にかかる経費も、将来は現在より増えることが見込まれます。事業を計画的

に実施するためには、国庫・都支出金の積極的な活用や計画的な基金の活用などを行いながら市債を活用していくことが必要となります。

また、公の施設などは、将来世代の市民も利用する性格があることから、受益に対する世代間の負担の公平性にも配慮して借入れを計画的に行うという側面もあります。

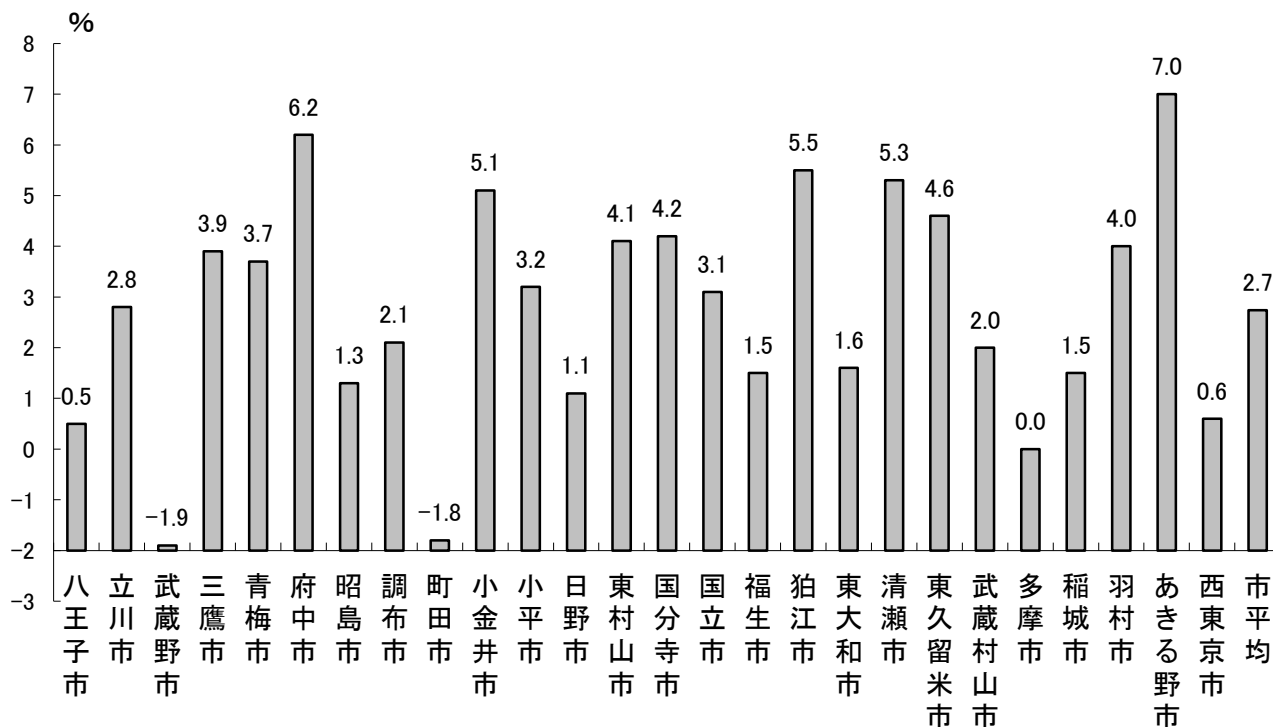
府中市では、中長期的な財政を見通した中で、実質公債費比率が目標値以下となるよう、計画的に借入れを行っています。

◆実質公債費比率の推移◆



※平成25年度・26年度は当初予算上の見込です。

◆平成24年度決算 多摩26市の実質公債費比率◆



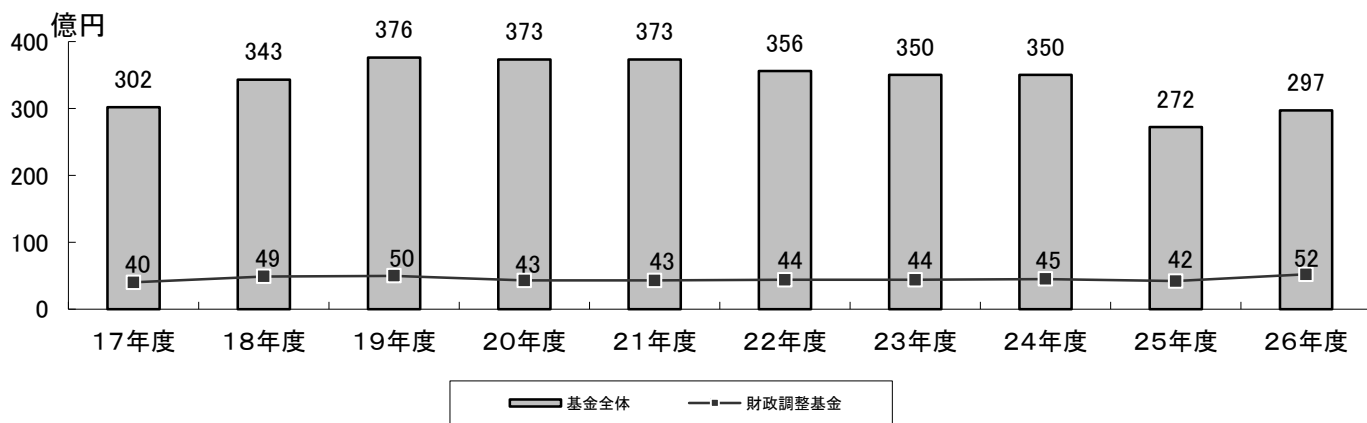
7. 府中市の基金の状況

基金は、家庭の貯金にあたるもので、特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立てるものと、定額の資金を運用するためのものがあり、いずれも条例により設けています。平成24年度末現在、府中市には18の基金があります。

府中市では、財政見通し同様に、一定期間ごとに基金計画を策定し、府中市総合計画に定められた各種事業の推進のための財源とするとともに、予算編成に伴う各年度の財源としても活用しています。

このうち、収支に余裕があるときに積み、不足するときに崩すという年度間の「財政調整」の役割を果たす基金として、財政調整基金が財政運営上重要な役割を果たしています。また、今後実施する施設等の整備のために、公共施設整備基金や都市整備基金といった基金を設けています。大きな事業を行うときには、臨時的にたくさんの財源が必要となるため、財源に余裕がでたときに積み立てを行ったり、事業計画にあわせて計画的に積み立てたりしており、財源が不足するときや事業の実施にあわせて取り崩すようにしています。

◆普通会計における基金残高の状況◆



(千円)

年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
基金残高	13,511,108	8,876,055	6,958,578	5,880,575	5,584,102	23,156,324
財政調整基金残高	3,450,000	2,290,000	1,882,000	1,992,000	1,944,000	2,982,000

(千円)

年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
基金残高	23,573,174	24,785,022	31,244,809	33,255,566	28,284,000	31,292,278
財政調整基金残高	3,000,000	4,257,750	3,105,750	3,015,750	3,480,750	3,848,640

(千円)

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
基金残高	30,114,808	28,845,403	30,257,790	34,324,864	37,665,661	37,337,590
財政調整基金残高	3,915,140	3,966,140	4,058,140	4,933,446	5,007,882	4,390,251

(千円)

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度当初	26年度当初
基金残高	37,342,289	35,656,279	35,042,170	35,033,191	27,270,973	29,761,031
財政調整基金残高	4,396,224	4,431,215	4,435,411	4,544,411	4,237,411	5,207,764

※25年度・26年度は予算額です。

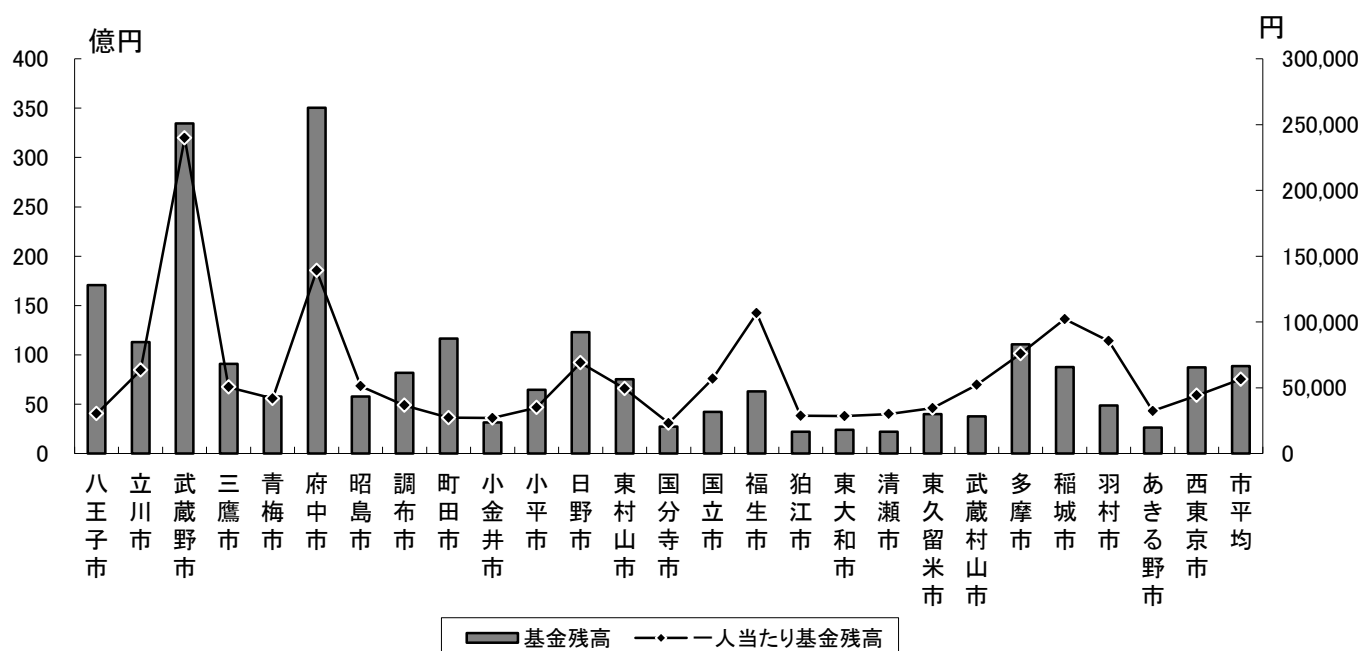
※基金残高は、普通会計におけるものです。

財政調整基金は、平成19年度末で約50億円の残高がありました。20年度以降、景気後退による市税収入の減少やごみの戸別収集の実施などの新たな財政需要への対応で取り崩しを行いました。また、景気回復による税収増などにより積み立てを行い、26年度末の残高は、52億円程度になる見通しです。

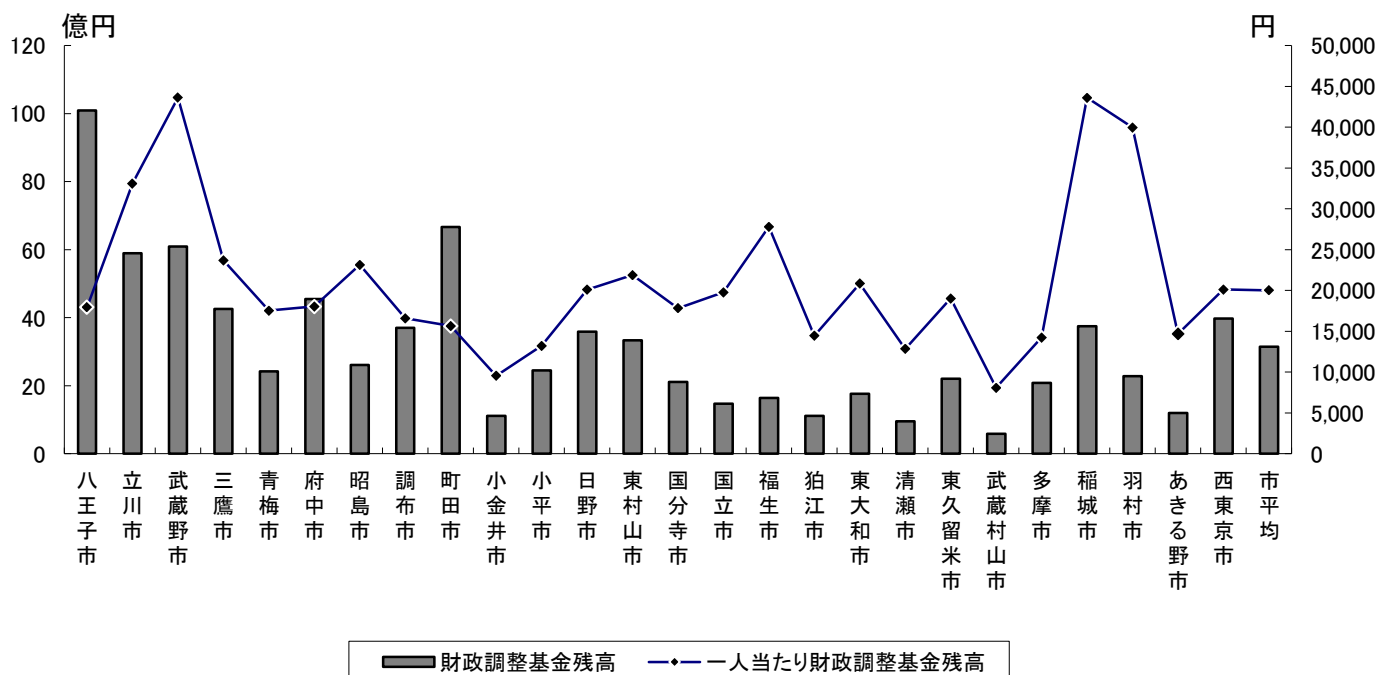
今後、市税収入の減少などで取り崩しを行った場合、基金残高が減少するため、基金残高を増やす努力が必要です。

ただし、基金の取り崩しは、経常的に収入される市税や交付金だけでは、年間の支出をまかないきれない際にルールに沿って行っていますが、現在の市民サービスを維持するためには、不足する歳入分を基金の取り崩しでまかなわないと予算が立てられない状況です。

◆平成24年度決算 多摩26市の基金残高と市民一人当たりの基金残高◆



◆平成24年度決算 多摩26市の財政調整基金残高と市民一人当たりの財政調整基金残高◆



	八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市
基金残高(千円)	17,073,224	11,300,158	33,451,560	9,083,998	5,798,575	35,033,191	5,794,781
一人当たり基金残高(円)	30,343	63,439	239,736	50,484	41,888	139,018	51,312
財政調整基金残高(千円)	10,092,318	5,895,130	6,089,133	4,261,299	2,425,744	4,544,411	2,612,559
一人当たり財政調整基金残高(円)	17,936	33,095	43,639	23,682	17,523	18,033	23,134

	調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市	国分寺市
基金残高(千円)	8,179,517	11,655,247	3,149,284	6,479,510	12,312,428	7,540,738	2,736,364
一人当たり基金残高(円)	36,643	27,347	27,045	34,964	68,961	49,458	23,152
財政調整基金残高(千円)	3,704,165	6,669,245	1,112,589	2,449,963	3,586,991	3,335,467	2,106,394
一人当たり財政調整基金残高(円)	16,594	15,648	9,555	13,220	20,090	21,877	17,822

	国立市	福生市	狛江市	東大和市	清瀬市	東久留米市	武蔵村山市
基金残高(千円)	4,232,179	6,301,227	2,221,854	2,410,176	2,224,664	4,013,376	3,762,915
一人当たり基金残高(円)	56,899	106,701	28,777	28,465	30,059	34,594	52,281
財政調整基金残高(千円)	1,469,725	1,642,612	1,115,593	1,764,689	950,198	2,205,686	582,084
一人当たり財政調整基金残高(円)	19,759	27,815	14,449	20,842	12,839	19,012	8,087

	多摩市	稲城市	羽村市	あきる野市	西東京市	平均
基金残高(千円)	11,080,089	8,771,925	4,890,550	2,647,416	8,739,595	8,880,175
一人当たり基金残高(円)	75,917	102,188	85,599	32,363	44,263	56,458
財政調整基金残高(千円)	2,078,259	3,744,274	2,283,675	1,200,801	3,972,595	3,149,831
一人当たり財政調整基金残高(円)	14,240	43,619	39,971	14,679	20,120	20,026

※基金残高は、普通会計におけるものです。

基金残高では、府中市は、多摩26市中で1位です。また、市民一人当たりの基金残高でみると13万9018円で、武蔵野市に続いて2位となります。また、基金のうち、財政調整基金では、残高は多摩26市では5位で、市民一人当たりの基金残高でみると1万8033円で14位です。

府中市の基金残高は、最近では、平成19年度末がピークで376億円、26年度末では297億円となっていますが、平成26年度以降も、公共施設の大規模改修や改築が予定されていることや府中駅南口地区市街地再開発事業に伴う負担金等の財源として基金を取り崩すこととなっており、今後、大幅な減少が見込まれます。

基金は、財政の年度間調整や特定の目的を達成することで、健全な財政運営を維持するためのものであり、計画的に管理し、積立額を維持していく必要があります。

8. 府中市の市債の状況

私たちの生活でいわれているローン（借入金）と同じく、府中市も施設建設などでローンを組んでいます。

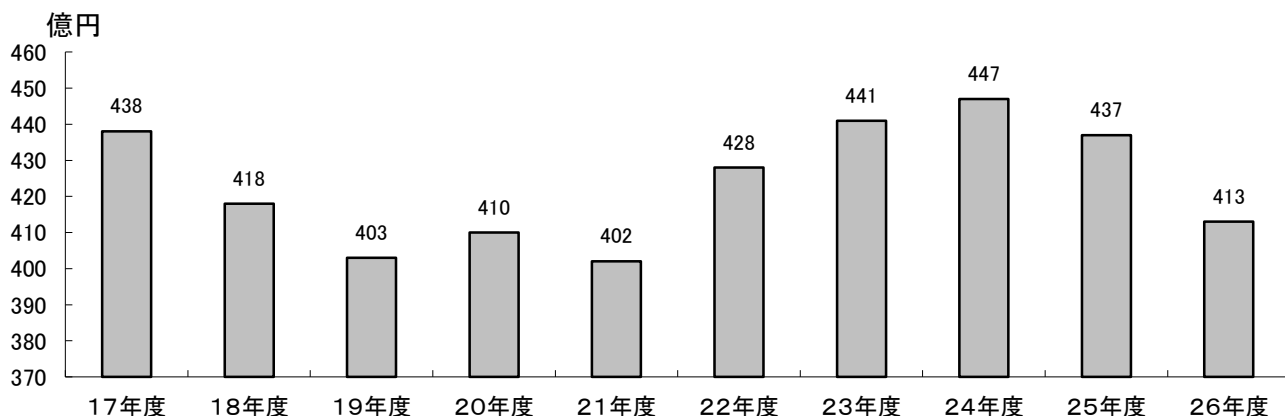
財政用語では、国が借り入れる借入金のことを国債、都道府県や市町村が借り入れる借入金のことを地方債といい、地方債の中では、市が借り入れる借入金は市債と呼びます。

市債は、公共施設の建設や道路築造など多額の経費が必要な場合に、一時的に経費負担が集中することを避け、将来利用する市民の方々にも応分の負担をしていただくために、国などから長期の借入れを行うものです。

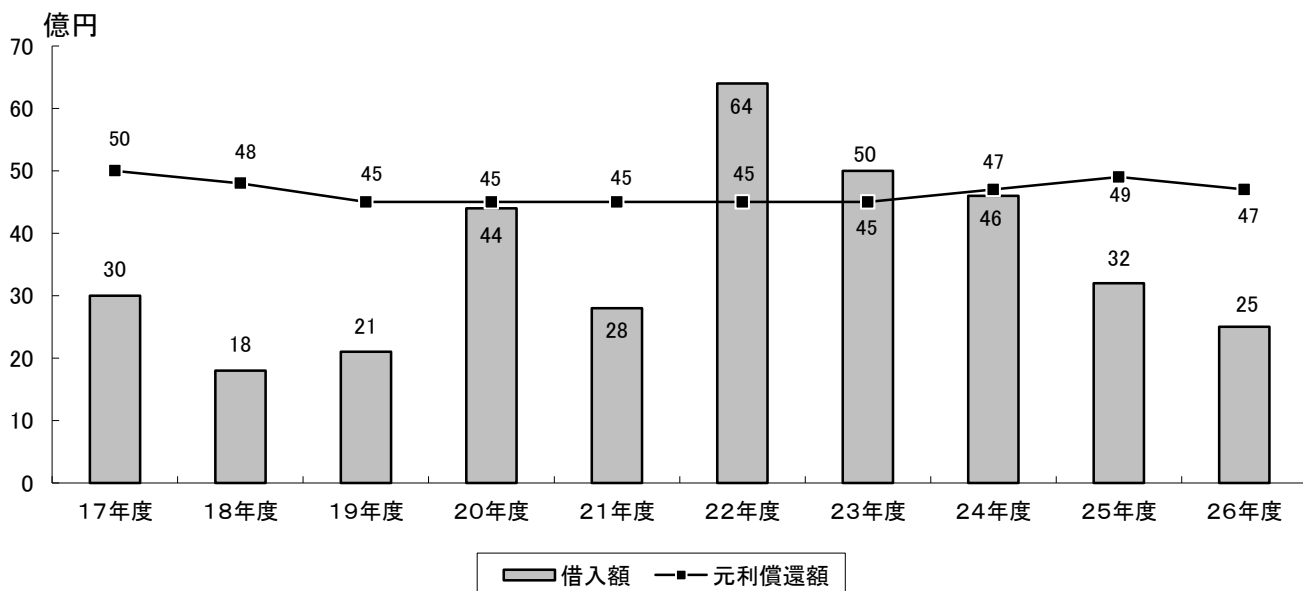
しかしながら、後年度の負担が大きくなるように、借入れについては十分注意する必要があります。市債残高は、一時は大規模事業の実施により大きくなっていましたが、計画的な借入れを行うことで減少してきています。また、市債は、市が勝手に借り入れることはできず、基本的には、市がその内容を国に協議し、国の同意が得られた場合に借り入れる仕組みになっています。

平成24年度決算での借入額は、普通会計で46億8090万円でした。元利償還額は、47億1813万7千円であったため、借入額より償還額が多くなっていますが、利子償還分を差し引くと残高では、約6億円が増えた状況となっています。

◆市債の借入残高の推移◆



◆年度別の借入額と元利償還額◆



(千円)

年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
借入残高	34,912,634	43,909,645	48,690,049	53,003,031	57,840,084	59,715,188
借入額	6,674,800	10,180,800	6,489,500	6,434,200	7,472,800	4,863,700
元利償還額	2,613,275	3,070,031	3,950,936	4,587,564	5,241,750	5,674,057

(千円)

年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
借入残高	58,019,419	53,506,299	53,217,246	49,362,090	47,930,894	46,418,825
借入額	1,780,100	2,372,900	3,649,400	1,824,400	2,433,300	2,700,858
元利償還額	6,131,475	9,403,222	6,121,558	5,738,696	5,691,428	5,858,223

(千円)

年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
借入残高	44,892,314	44,761,816	43,851,991	41,851,581	40,360,387	41,054,317
借入額	2,588,800	4,114,600	3,062,300	1,841,800	2,190,000	4,439,600
元利償還額	5,564,957	5,476,787	5,051,353	4,844,610	4,599,547	4,585,598

(千円)

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度当初	26年度当初
借入残高	40,216,803	42,882,059	44,111,714	44,719,088	43,745,541	41,356,987
借入額	2,893,800	6,469,700	5,091,300	4,680,900	3,267,000	2,501,700
元利償還額	4,519,813	4,533,440	4,556,332	4,718,137	4,902,067	4,728,631

※25年度・26年度は予算額です。

※金額は普通会計によるものです。

※借入残高は年度末残高です。

今後、市では、府中駅南口地区市街地再開発事業や市庁舎建設事業などの大規模な事業で市債の借り入れを予定していることから、事業進捗状況によって、借入額が増加することが予測されます。

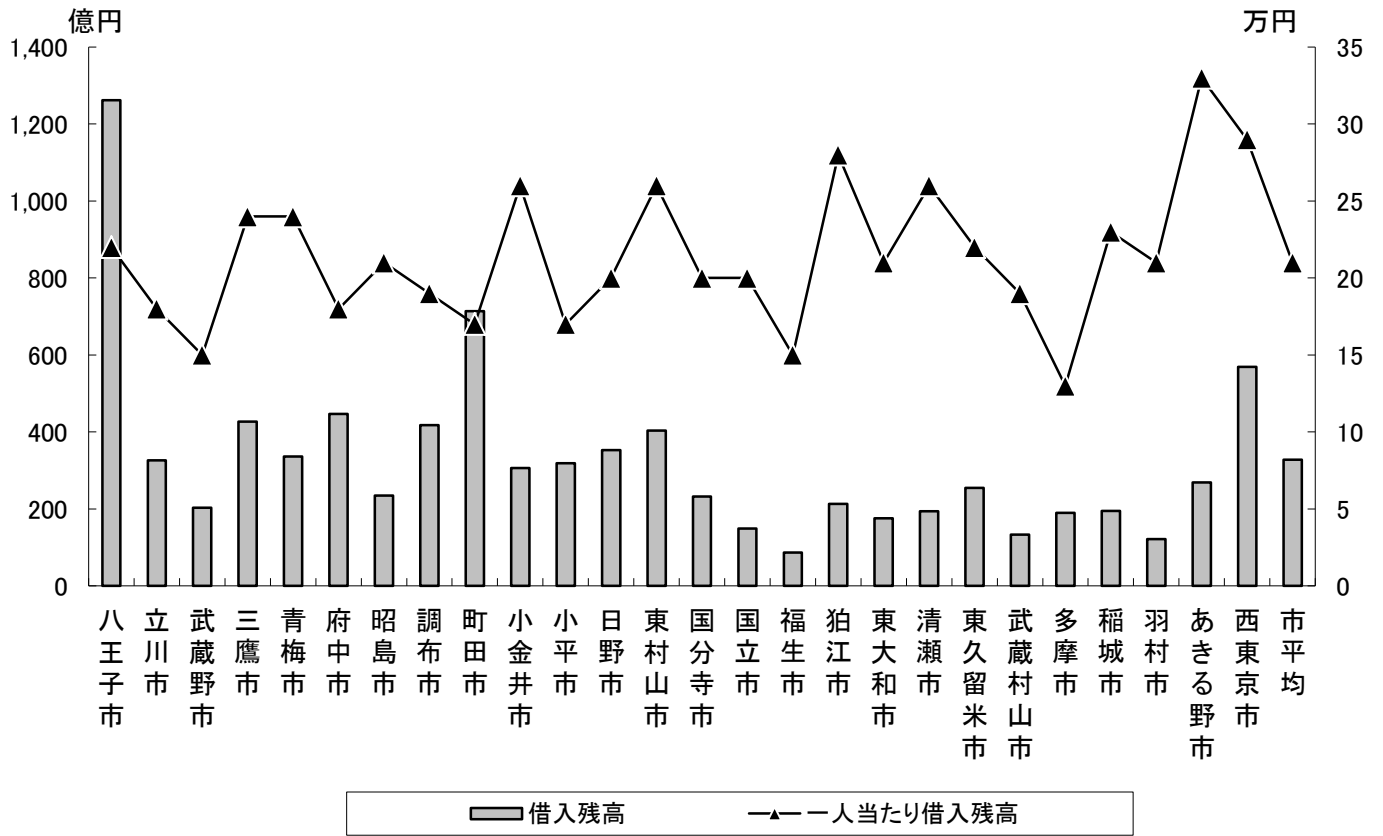
償還額よりも借入額が上回る場合、借入残高が増加し、標準財政規模に対する割合も増え、財政指標も悪化することが考えられます。

また、平成24年度決算での多摩26市の借入残高の状況は、次の表のとおりです。

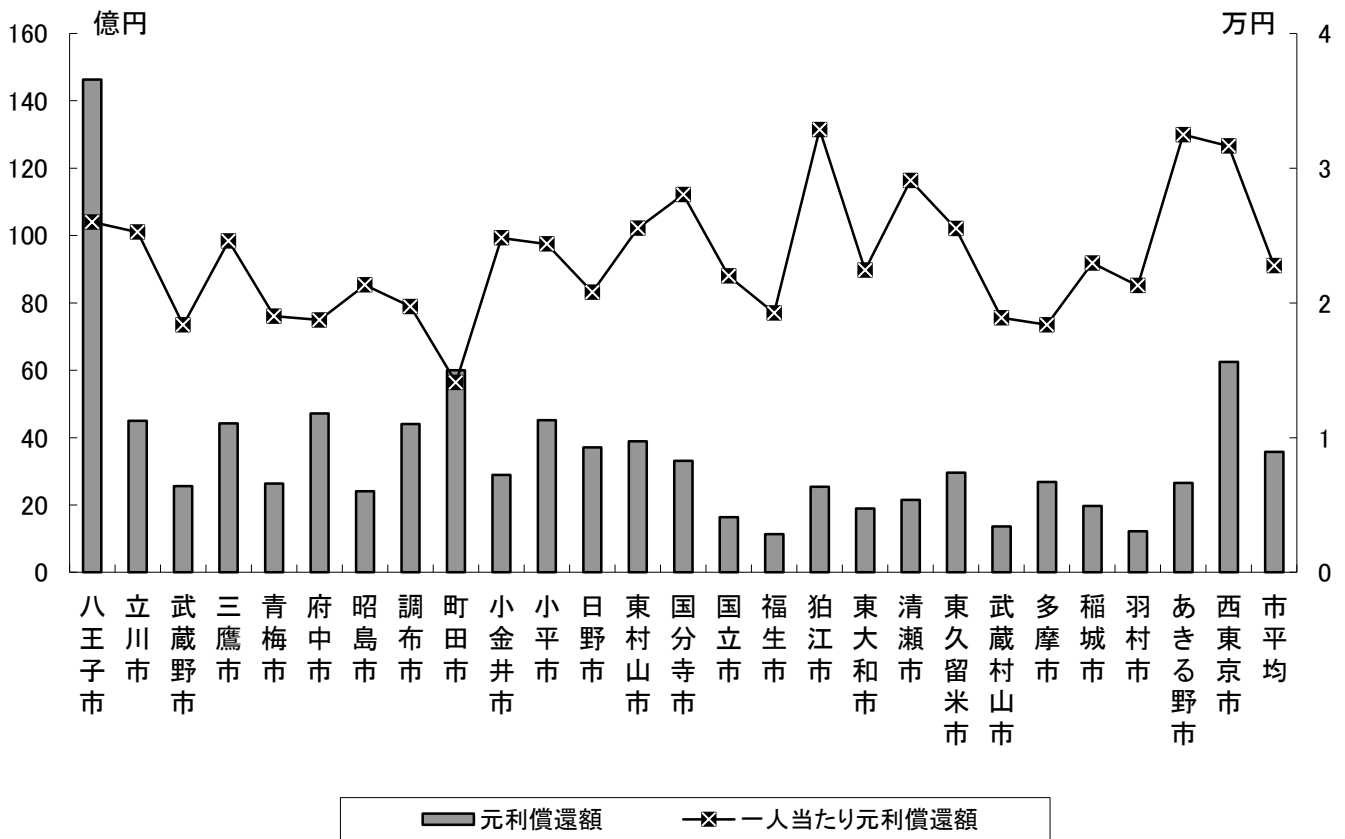
借入時期や借入額は、各自治体の施策の展開や事業の進捗状況によっても異なるため、特定の年度に限っての比較のみで、各自治体の財政状況の善し悪しを判断することはできませんが、借り入れた市債の償還は、複数年に渡ることから、多額の借り入れは、将来の財政を圧迫することにつながります。このため、府中市をはじめ各自治体では、計画的な借り入れに努めています。

平成24年度決算の状況でみると、府中市の借入残高は、4番目に多いですが、市民一人当たりでは21番目です。また、償還額は、4番目に多いですが、市民一人当たりでは23番目です。

◆平成24年度決算 多摩26市の借入残高と市民一人当たりの借入残高◆



◆平成24年度決算 多摩26市の元利償還額と市民一人当たりの元利償還額◆



	八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市
借入残高（千円）	126,236,806	32,624,614	20,282,191	42,718,380	33,595,255	44,719,088	23,539,252
一人当たり借入残高（円）	224,350	183,154	145,356	237,406	242,686	177,454	208,437
元利償還額（千円）	14,629,059	4,497,491	2,561,054	4,425,717	2,631,777	4,718,137	2,408,223
一人当たり元利償還額（円）	25,999	25,249	18,354	24,596	19,011	18,722	21,325

	調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市	国分寺市
借入残高（千円）	41,753,956	71,429,623	30,582,698	31,923,666	35,304,896	40,403,598	23,199,218
一人当たり借入残高（円）	187,053	167,595	262,636	172,262	197,739	264,997	196,287
元利償還額（千円）	4,403,412	6,004,296	2,890,545	4,517,384	3,712,822	3,893,463	3,313,985
一人当たり元利償還額（円）	19,727	14,088	24,823	24,376	20,795	25,536	28,039

	国立市	福生市	狛江市	東大和市	清瀬市	東久留米市	武蔵村山市
借入残高（千円）	14,857,349	8,730,065	21,305,489	17,637,656	19,366,810	25,530,615	13,328,059
一人当たり借入残高（円）	199,747	147,829	275,946	208,308	261,678	220,063	185,176
元利償還額（千円）	1,635,695	1,136,772	2,537,559	1,899,237	2,152,458	2,960,156	1,360,038
一人当たり元利償還額（円）	21,991	19,249	32,866	22,431	29,083	25,515	18,896

	多摩市	稲城市	羽村市	あきる野市	西東京市	平均
借入残高（千円）	18,964,466	19,484,996	12,215,224	26,884,346	56,892,884	32,827,354
一人当たり借入残高（円）	129,938	226,989	213,803	328,643	288,143	208,707
元利償還額（千円）	2,680,491	1,970,555	1,215,658	2,657,336	6,247,288	3,579,254
一人当たり元利償還額（円）	18,366	22,956	21,278	32,484	31,640	22,756

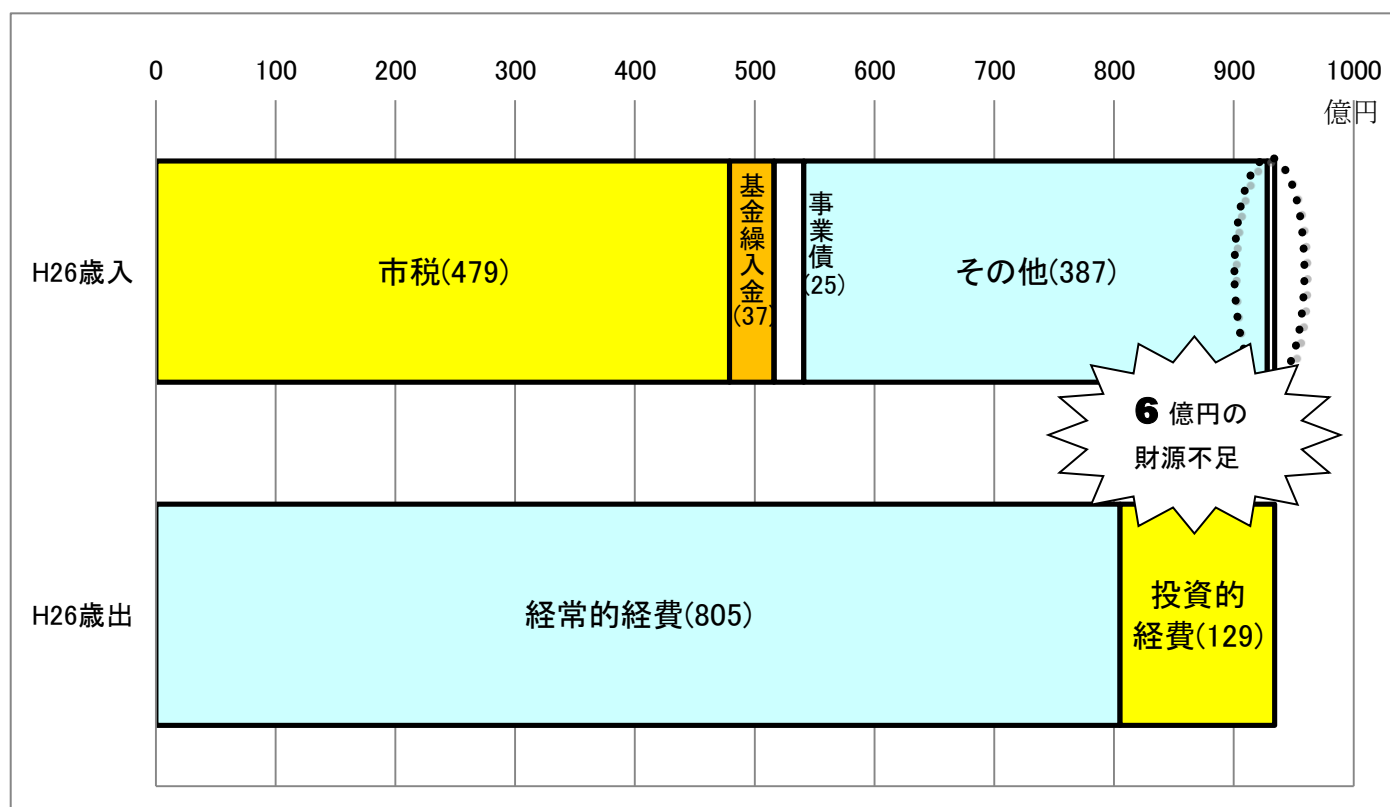
※借入残高、元利償還額は、普通会計におけるものです。

9. 今後の市の取り組み

府中市では、一般会計と公共用地特別会計を対象として一定期間ごとに財政を見通し、歳入額と歳出額を見込み、中長期的な見通しにたった収支の均衡に配慮しながら予算編成を行うことで、健全財政を維持しながら、市民サービスの維持向上に努めています。

現在の財政状況は、平成20年度からの世界的な経済不況以降、市税などの歳入不足が発生しています。予算編成においては、経済不況に伴う市民生活への影響に配慮し、大幅な歳出の削減を行わず、基金の繰り入れなどにより歳入不足の補てんをしています。

具体的には、一般会計と用地会計を合わせた平成21年度予算では、約24億円の財源不足、22年度予算では、約42億円の財源不足、23年度予算では、約33億円の財源不足、24年度予算では、約25億円の財源不足、25年度予算では、約14億円の財源不足、26年度予算では、6億円の財源不足となりました。この財源不足の対応として、24年度までは基金の繰り入れと臨時財政対策債の借り入れにより対応していましたが、これまで活用していた臨時財政対策債については、府中市などの普通交付税不交付団体は、平成25年度から借り入れできなくなったため、25年度および26年度の財源不足については、全て基金の繰り入れにより対応したところです。



現在の経済状況は、一時の低迷を脱し回復基調となっていますが、消費税率引上げの影響も見込まれ、今後はまだ楽観できる状況ではなく、財政運営は依然として厳しいものとなることが見込まれます。この対応として、歳入では新たな財源の確保、歳出では、事業の廃止も含めた事務事業の見直しが急務となっています。

これら財源不足を解消し、健全な行財政運営を行っていくため、平成26年度を初年度とする新たな行財政改革推進プランを策定し、さらなる行財政改革を推進していきます。

平成26年5月
府中市政策総務部財政課